ど、どうぞ…
ゆさっ
たぷっ

学校のボランティア活動で近隣の老人達の自宅訪問し
世話を焼いた愛佳。其の内の一人
余りに寂しそうな老人を心配した愛佳がその後も会いに行き
世話を焼いていたのだが‥‥それが大きな間違いだった。

か弱い年寄りも只の演技で中身はゲスで助平な老害だ
独り身なのも性格が悪く親類から手を切られただけと云う始末。
世話する内に　初めのうちは事故を装った軽いセクハラ程度だったのだが
愛佳が大人しい事を見るや調子づいた年寄りがエスカレートしてゆき
迫られ仕舞には迫なし崩しに身体を許してしまう‥‥。
『愛佳ちゃんがいるから生きて行ける‥‥』泣いて懇願する老人
当然愛佳としては嫌なのだが　どうにも見捨てられず‥‥

今日もボランティアとして老人の家に訪問し世話を焼く愛佳
庭掃除に部屋の片づけ
この老人にとってそんな事などどうでもよく目当てはこっちだ。
『今日も甘えさせて欲しい‥‥お願いじゃ‥‥！』
片付けをする愛佳に縋りつく老人
必死な懇願に負けて今日も関係を持ってしまう愛佳。
『頼む　後生じゃ‥‥これで最後にするから‥‥！』『わ、わかりました‥‥』
恥ずかしそうに顔を赤らめ　制服をはだけブラを取り
幼い顔立ちに似合わない　大きなおっぱいを老人に差し出す愛佳
たっぷりとした巨乳がぷるんと震える。
『ど、どうぞ‥‥‥』『ありがとう‥‥ありがとうなぁ』
優しい愛佳の心配とは裏腹に腹の中で舌を出す老人

ほんにでかくてええ乳じゃぁ……
美味い 美味い♡
んっ……
気持ちええんかんん？
ああっ！

『ほんに大きくてええ乳じゃ　愛佳ちゃんありがとうなぁ？』
戦争で死んだ姉に似ている　甘えさせて欲しいと涙ながらに懇願する老人。
‥‥勿論彼は戦争など体験してないし姉などいない　嘘八百だ。
口八丁手八丁、小娘一人転がすなど造作もない事だった
『愛佳ちゃんのおかげで元気が湧いてくるんじゃ』
『あ…はっ　んっ　ふっ‥‥！』
和室の中で老人と美少女が二人きり楽しい時間が繰り広げられる
聞こえるのは美少女の押し殺した喘ぎ声
（ニュッ　タプゅ　もみ　もにゅっ）
老人が愛佳の柔らかな巨乳を弄ぶ　慣れた手つきで揉みしだき
硬くしこって来た桜色の乳首をベロベロ嘗めまわし味わう
べっちゃりと乳首が老人の臭い唾液塗れになる
まるで動物がマーキングするかの様に…。
『美味い美味い♪』『んっ　ふあっ！』
丹念に乳首をしゃぶり　小刻みにコリコリと歯で噛み搾る
（じゅっじゅぱっじゅるるっコリコリコリコリコリッ）
たっぷりとした肉を下品な音を立て思い切り吸い込み
口内で器用にいやらしく舌で乳首を転がす。
大きな反応をしない様我慢する愛佳をニヤニヤとねめつきながら
これでもかと巨乳を責め立てる

反対の乳首も指で捏ね　捻り執拗に愛撫を繰り返す
『あ…っあああっ！』
老人の巧みな責めにガクガク腰が砕ける愛佳

甘えるなどと生易しい物ではなくセックス　前戯そのものだ

おっおおお～…
おじいさん
気持ちいいですか…？

老人が愛佳のおっぱいから口を離すとねぱっと汚い音を立て
唾液が糸を引く　軽く絶頂したのだろうガクガクと震え紅潮した愛佳
『いつものアレやってくれんか？』『はい‥‥わかりました』
満足するまで愛佳の胸をしゃぶり尽した老人がお願いする。
愛佳はソファに座った彼の股間に顔を埋め
その巨乳で老人の元気にそそり立つ一物を挟み扱く
『お、おぉぉ～‥‥』『気持ちいいですか‥‥？』
所謂パイズリだ　柔肉の乳圧の心地よさに思わず呻く老人
寂しい老人を慰めようと一生懸命おっぱいで扱き愛撫する
『ほれ　先っぽ嘗めて　しゃぶって‥‥！』
図々しいお願いにも頷き奉仕を続ける　胸の谷間から突き出た亀頭を
ペロペロ嘗め　吹き出す先走りを啜る
『おほぉぉ～‥‥っそれそれ　ええ具合じゃあ‥‥』
女子高生にパイズリフェラをさせ嬉しそうに身震いする老人
『んむ‥‥っあむ　ちゅ　ちゅるっ』
一物をたっぷりと重量感のある両巨乳で捏ね上げ　亀頭を嘗め
丁寧にしゃぶり快感を与えようと懸命に愛撫する愛佳
子猫がミルクを飲む様に　老人の一物を小さな口で必死に吸い付く。

『う、お　おっと　気持ちええが漏らしちまう』
10分ばかり奉仕を愉しんだ老人が愛佳にストップをかける
射精しかけて慌てて止めた様だ　一物を口から引き離す
『そこに乗って　尻向けておくれ』『こうですか‥‥？』
場所を交代し　言われるがまま愛佳はお尻を突きだす
相変わらずいやらしいお尻だと尻肉を撫で遊む
そして亀頭を愛佳の秘肉に宛がい‥‥

愛佳ちゃん……っ
愛佳……っ
うっうっ
あぁあ～……
んむっ
あ……あ
ナカに出してる…

時間は午後　外から学校帰りの子供の声が聞こえる
そして室内では肉と肉のぶつかり合う音が響く
『ほっほおぉ…　おうっ』『んっ　あはっ　あっあっあっ…！！！』
呻く老人と若い娘の喘ぎ声。
ソファをベッド代わりにしセックスをする　若い…というより
孫と変わらない年齢の娘を老人が犯す。
大きな尻を鷲掴みにして前後に腰を振りストロークする
ぢゅぷぢゅぷと粘つく音を立て愛佳の秘所に己の一物を突き立て
何度も腰を振りはちきれんばかりの女の肉の味を思う様堪能する
膣肉が絡みつきしゃぶってくる　その快感はいくつになっても
堪えられない物がある　ましてやこんな美少女の肢体だ
『うんっ　あ…はぁ…っ』
愛佳は恥ずかしさ　罪悪感に声を殺して悶える　そのいじらしい姿に
支配欲を刺激され滾る老人はねちこく攻め立てる
『ほれっほれっ　まだまだいけるじゃろ？』
胸を揉み乳首を捏ねGスポットを重点的に突いてくる
テクニカルな腰使いに巧みな愛撫これのどこがか弱い年寄りと言うのか。
『うっうぅ～っ　あ　あぁ～…っ』老人が身震いし膣内のソレがビクビク跳ねる
絶頂を感じ取った愛佳は懇願する『せめて　外に…っ』
『おっ　ほおうっ！　うっう…！』
聞こえないふりをしてそのままたっぷりと精液を娘の子宮に
注ぎ込む　脈動に合わせてブビブビと大量の射精する
一滴残らず搾り出し己の精子で汚してやる　愛佳も軽く達してるのだろう
膣内が一物を搾り取るような動きをしているのが判る。
『ふうっ　すまんなぁ愛佳ちゃん　出ちゃったよ♪』『あ…』
しっかりと出し尽くした後　一物を引き抜き愛佳の秘所から
精子が垂れてくるのを嬉しそうに眺める。
若い娘と一戦交えすっかり満足した老人
『あとは…いつものお遊びかの？』『…っ！』

あっああっ
乳首に……っ！
おお　虫の分際で
頑張るわい♪

『それじゃあいつものやろうか？　もう我慢出来んじゃろ？』『はい…』
『こいつらも待ちきれんと煩いわい…』
徐に老人がビニール袋を取り出す　中には黒い昆虫　無数のゴキブリが
ガサガサと激しく動き回っている

蟲遊び～悪趣味な老人の悪戯
以前ゴキブリが愛佳の衣服に入り込んで　老人の前で迂闊にも感じてしまった。
仮想世界で虫に散々嬲られた身体は敏感に反応してしまい…
目ざとい年寄りが面白半分で度々服に　下着の中に
ゴキブリを入れてきて…新しい玩具を見つけた子供の様にはしゃぐ老人。
初めは只の悪戯だったのが次第に熱を帯びてきて…
いつの間にか愛佳もソレを受け入れる様になっていた。

袋から取り出したソレを半裸の愛佳にけしかける老人
水を得た魚の様にゴキブリが愛佳の柔肌を這いまわる
(ゴキブリが身体を這うのが気持ちいいなんて…)
『虫の分際でおなごの味を覚えちまったようでな　ちゃあんと
美味しい処に集り寄るわ』『ふあっ！』
乳首に齧りついた一匹を摘み引っ張る　離すまいと顎で食らいついたまま
胸が持ち上がる
本当に判っているかの様に性感帯を這い廻り　プリプリとした肉に噛みつき
吹き出す汗や蜜を嘗めとるゴキブリ
異常な構図も暇を持て余した老人にとっては面白くて堪らないらしい

害虫に嬲られ身悶えする美少女と楽しそうに笑う老人

ほれ 慌てるな
今美味いのくれて
やるわい
ああ…っ
ゴキブリがいっぱい…
入っちゃ…

『あ、ああっこんな！』
『そこ　そこ　いけ！』老人がはしゃいでいる
老人の指示でまんぐり返しになった愛佳　不様な恰好の彼女に群がるゴキブリ
充血した秘肉が厭らしくヒクヒクと痙攣して　むわっと立ち上る雌臭。
すぐさま嗅ぎ付けたゴキブリ達が這い上がり　秘肉から垂れる雌汁を嘗めだす
愛佳の白い肌に無数の昆虫が忙しなく這いまわる
すっかり甘酸っぱい雌の味を〆た虫共はキチキチ鳴きながら
肌に垂れる汗や蜜を忙しなく口部を動かして取り込んでゆく
徐々に這い上がって行き　等々蜜の源泉に取りつき
秘肉そのものを虫がチロチロと甘噛みし嘗めしゃぶる
『あはぁっ！』『おや　ゴキブリにおめこしゃぶられて気持ちいいのかい？』
快感をこらえる愛佳をからかう老人必死な愛佳に構う事なく好き勝手弄ぶ虫共

然もありなん。
ゴキブリ共にとって目の前にあるのは『人間』ではなく巨大な肉山
旨そうな匂い立ち汁の垂れる肉塊だ　かき集められ餓えた昆虫にとって
絶好の獲物だろう　無数のゴキブリが秘肉に集る
舐められる度　刺激される度零れる雌蜜　クパクパと誘う様に伸縮する
膣孔に気づくゴキブリ　蜜の噴出口だ。
『んうっ‥‥！』
カサカカサと這いまわり(キチキチキチ‥‥)口で触覚で孔を探るゴキブリ
そして等々‥‥。

モゾモゾ
キチキチッ
ビクッ
ゴポッ
ゴソゴソ
キチキチ
ガサ
ガサ
ガサ
ガサ
カサ
キチキチッ
カサ
カサ
カサッ
ビクッ

ゴソゴソゴソゴソ‥‥！
『あっ　は　入ってくる…！』思わず声を上げてしまう愛佳
狭い処に身を潜めようとするのは本能だろうか
身を捩らせ『孔』に侵入を試みるゴキブリ　その全身が見えなくなってしまう
強引に狭い孔に潜り込んだ。
狭い肉道に入り込んだ虫は　汁を掻き出しながらねっとりとした熱い蜜肉
その奥へ奥へと前進する

一匹また一匹と右に倣えと入り込む虫共
ゴキブリにとって狭くて暖かいジメジメとした空間は極上の佇まいだろう
しかも雌の蜜が滴り　餌まで勝手に出てくるのだから。
キチキチキチ‥‥！
歓喜の鳴き声を上げ内部を蹂躙する虫共　肉を掻き染み出す汁をたらふく啜る
肉粒群を刺激すると餌が大量に染み出してくることを発見した一匹。
仲間の為に懸命に仕事をする　ねちねちと前足で捏ね　粒をしゃぶる度
肉室が激しく収縮し四方からとろとろ蜜が垂れてくる……。
粘り気の強い白く濁った蜜をクチャクチャ咀嚼し腹に収めるゴキブリ達。
いわゆるGスポットという奴だ。

侵入できなかった虫も各々遊んでいる様だ
衣服に侵入し肌を這いアスレチックの様に愉しむ虫
柔らかい肉に取り付き　頭頂部の突起をおもちゃにする虫も。
『……っ！！……！！！』
只、愛佳にとっては溜らない　大事な場所を大量のゴキブリが這い廻り
犯されているのだから　快感　気持ち悪さがごちゃ混ぜになって責めてくる
『おおう　こりゃ凄い　オメコにゴキブリがびっしりじゃ』
その様子を見て無邪気にはしゃぐ老人　とんだゲテモノ趣味だ。

ジュポポポ

催した老人が思い付き　愛佳の膣内に放尿
ジョボボボと音を立て内部のゴキブリを水攻めにする
『住まい』に侵入してきた大量の小便にパニックを起こし逃げ惑う虫共
膣内を縦横無尽に駆け巡る
足をばたつかせ悶える愛佳　正に肉便器として扱われる

こうして老人の悪趣味なお遊びに付き合わされる
『済まない　もうしないから』と泣いて謝る老人に結局許してしまう
‥‥その約束が守られる事は無いのだが　既にお互い『判っている』
予定調和となりつつある。